

Weekly Bulletin

2014-2015



RI会長
デイリー C.K. ホァン
(黄其光)



静岡東ロータリークラブ

会長/伊藤洋一郎 幹事/相原雄治

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
伊藤洋一郎

第 2683 回例会

平成 26 年 9 月 11 日 天候 曇り

《司会》 相原雄治 君

《合唱》 「我等の生業」

《BGM》 「George Gershwin JAZZ PIANO」

《ゲスト》 なし

《ビジター》 山本倫弘 君(沼津北 RC)

《本日のお祝い》

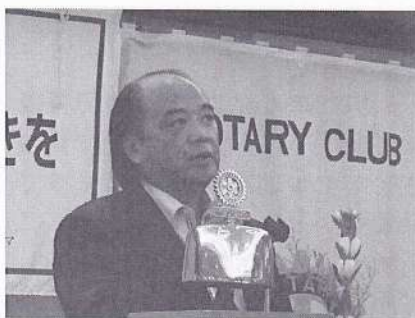
お誕生日

結婚記念日

9月11日 多賀洋 君

9月13日 氣谷雄太郎 君

《会長挨拶要旨》



あなたの「ふるさと」はどこですか？と聞かれると、私はいつも、「私のふるすとは長崎です。長崎の出身です。」と答えます。

しかし私が

長崎市にいたのは、4才から8才の頃までの5年間だけです。あとは、長崎県の五島列島、佐世保、島原で過ごし、その後、佐賀県の武雄市で高校を終えました。それから、大阪、東京と暮らし、今静岡にいます。長い期間暮らした場所なら東京と静岡です。

そんな私にとって、海が青く海風が吹き潮の香りのした長崎は、いくつになっても、いつも私のふるさとであり、それは長崎なのです。どうしてなのでしょう。

人が「ふるさと」に寄せる想いって何だろうかと思ひます。

小説家の壇一雄は、訪れたヨーロッパのある場所について次のような言葉を残しています。

「人の命は、そんなに長いものではないので、できるだけ多くの場所へと自分を急がすより、自分の心が動くような場所で、ゆっくりと思い出を深めてゆきたい。人との触れ合いに心を動かし、自分自身との心の対話をしてみたい。」とっています。

私は、どこで暮らしていても、人と触れ合い自分自身との心の対話のできる場所としての想いが「ふるさと」ではないかと思っています。人は時を過ごし、夜を遊び、人生に酔うが、ふとぼんやりと心の対話をするとき、実は、いつも「ふるさと」に心を置いているのではないのでしょうか。

変わりゆくものに身を置き生きていて、変わらないものに心を委ねていたいと思うときがあります。そんなときに「ふるさと」は人の心を育て、育んでくれる場所なのだろうと思います。

私にとって、「長崎」という町は、きっとそんな場所だったのだろうと思います。だから、子どもの頃のわずかな5年間しか暮らしたことのない場所だったのに私は、いつも長崎は私のふるさとなのだと答えるのでしよう。

「人と触れ合い」「人と心を動かし」「自分自身との心の対話」をしたい場所がふるさとなのでしょう。

みなさんにとって、「ふるさと」はどこですか？

心のふるさとを探してみたいはいかがでしょう。

《会員卓話》

新井勉 君

くはじめに>

私は昭和 36 年生まれ、生まれ育ちは東京文京区です。まだ両親健在で実家がありますが、家のすぐそばには、井原西鶴の名作「好色五人女」などで有名な「八百屋お七(1668~1683)」の墓があります。お七は、放



放

火の大罪で捕らわれ火あぶりの刑にされた女性といわれています。損保会社的な話をすると江戸時代から現代に至るまで、放火は常に火災原因の上位を占めています。そして、この「八百屋お七」に関連して私自身が損保会社へ入社した・・・なんていう訳ではありません。

<勤務先での経験>

昭和 59 年に損保に就職し、これまで転勤で 9 回の転居を経験してきました。現在は、東京都西東京市に家族を残し、福岡以来 2 度目の単身赴任生活を送っています。特に記憶に残っていることは、西宮時代「阪神大震災」に遭遇したことです。被災地では、情報不足や社会インフラが破たんし、なにもかも不足している状態が続きました。このような状況下で発揮されたのが市民同士の「共助の力」でした。当時、家の中に埋もれた人は 35,000 人位いたそうですが、そのうちの 8 割、27,000 人はご近所の人によって助け出されたそうです。また、支援物資が全国から届く中、物資の仕分けに追われていた職員を助けたのが、後に「ボランティア元年」という言葉を生み出した、ボランティアの力でした。

東日本大震災でも日本人の対応のすばらしさが海外から認められ、日本の将来に向け大いなる希望になったと、私自身改めて感じました。損保会社からは、私も含め多数の社員が応援として全国から東北へ駆けつけました。その時に被災者の方々からかけられた言葉が、後の働きがいに繋がっているという話を今でもよく聞きます。「私たちは大丈夫だから、もっと困っている人のほうへ行ってあげてください」「大変な時に来てくれありがとう」被災地の方々のやさしさを直接に感じ、また悲しみが残る中で業務を通して少しでも希望をお届けしていくという経験できたこと。この経験は我々損保会社の社員において、職業倫理観のモチベーションアップに大きく貢献しました。

<家族のこと>

東京都西東京市では、妻一人、子供ふたり、愛犬一匹が自宅を守ってくれています。現在 2 度目の単身赴任が 4 月から始まり、夫婦円満状態を維持するために心がけていることをお話します。これは福岡の単身赴任時代にある方から伝授されたもので「愛の三原則」というものです。

- ・一つ：「ありがとう」をためらわずに言おう。
- ・二つ：「ごめんなさい」を恐れずに言おう。
- ・三つ：「愛している」を照れずに言おう。

この三つの言葉にはパワーがあるので、本心はともかく使うことが大事です。そしてさらに大切なのが「非勝三原則：勝たない、勝てない、勝ちたくない」。これは夫婦喧嘩の際の亭主側の心構えです。夫婦喧嘩では絶対に勝ってはいけない、負けなければいけないと教えられました。なぜ勝たないのか？妻が怒っている時に反論しても、妻の説教が 1 時間から 2 時間に延びるだけだからです。また、なぜ勝てないのか？妻は 10 年、20 年も前のことをまるで昨日の事のように持ち出し、時系列に関係なく反論してきます。よもや勝った

としても、妻は「無言の行」という荒技でしっぺ返ししてくるから勝つべきではないという教えでした。私はけっして恐妻家ではありません。気持よく上手に妻の尻に敷かれてみせることが、本当に強い亭主のあり方であり、家庭円満の王道なのではないかと感じています。ロータリアンの活動も「家庭円満のために妻に奉仕活動をせよ」と奨励されている、私はそう理解をしておりますので、今後も実践していくつもりです。

<9月 合併により新会社発足>

今月から損保ジャパンと日本興亜が合併し「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」という長い社名に代わりました。当社は損害保険事業を核として、お客さまの安心・安全・健康を支援する先進的なサービスを提供することで、真のサービス産業に進化していくことを目指しております。今後も、この静岡の地の皆さんとの結び付きをさらに広く、強くしていきたいと願っていますので宜しくお願いします。

《スマイル報告》

- 足羽 祐治 君 孫の麦子が司法試験に合格しました。弁護士の小さなちいさな卵で、湯気が立っています。勝山先生、伊藤先生、これから御指導をよろしくお願いします。
- 丹羽 亨 君 伊藤会長のご復帰と私の誕生日を祝してスマイルします。
- 川口 尚宜 君 一週間遅れになってしまいましたが、伊藤会長の復帰を祝しスマイル致します。大事にならなくて本当に良かったです。
- 氣谷雄太郎 君 結婚記念日のお花を頂きます。28 回目の結婚記念日です。早く単身赴任を終わらせ自宅に帰りたいと願っています。ありがとうございます。
- 曾根 正弘 君 浜松市の天竜二俣に、自分で獲ってきた天然うなぎを予約で食べさせてくれる店を知り、はまっています。
- 富井 一矢 君 秋めいてきたので、スマイルしてみました。
- 伊藤洋一郎 君 事故後人格が変わり、穏やかになったので、今日もスマイルします。皆出席のお祝いをいただきありがとうございます。
- 多賀 洋 君 誕生日のお祝い、ありがとうございます。今年一年がんばります。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
9/11	52(51)	41	11	-	-	-
9/4	52(51)	43	9	-	-	-
8/28	52(51)	38	14	9	5	72.55%